

シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁の小さな映画館で、冒険がはじまりました。
アパートの扉の奥の一室で、大きなスクリーンと、包み込むような音響が
好奇心旺盛なあなたをお待ちしています。

ドキドキするような世界の映画との出会いがある。
ここは、異国への入口／異郷への出口。

和歌山の皆さま、月に2時間の小旅行へようこそ。

🎫 入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大專：1,500 円 / 小中高：1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

最新スケジュール →



📍 アクセス [北ぶらくり丁会館 2F] 本町公園より徒歩 1 分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
[北ぶらくり丁会館]の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩／バス】
和歌山市駅より徒歩 10 分／バス 1～2 分(800m)
和歌山駅より徒歩 25 分／バス 5～9 分 (2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203

2 月の上映



今日も世界中の映画館で



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 パリの映画館へ——Histoire(s) du cinéma みんなの歴史の中の自分だけの物語

“映画とは現実を輝かせること…その通りだと切実に思う。よくぞ言ってくれました” ——黒沢清(映画監督)

アルノー・デプレシャンというフランス映画界の新星が日本で話題になったのは、ミニシアターブームがいったん落ち着いた 1997 年のことでした。そのころ私が好きだった映画はあの場所で…と、自分の中に眠っていた“映画の記憶”が、目の前の映画とは別の場所からむくむくと起き上がってくる 1 本です。50 本もの映画が引用されているそうですが、答え合わせなどお気になさらず。自分だけの思い出と昔話をするのもいいですね♪



『映画を愛する君へ』Spectateurs! (Filmlovers!)

監督・脚本：アルノー・デプレシャン

出演：ルイ・パーマン、ミーシャ・レスコ、ショシャナ・ヘルマン、
ケント・ジョーンズ、サリフ・シセ、マチュー・アマルリックほか

配給：アンブラグド (2024 年/フランス/88 分)

🎬 ローマの映画制作現場へ——頑固な青年監督が 30 年かけてたどり着いた境地

チネチッタ……ヴィスコンティやフェリーニはもちろん、ウィリアム・ワイラーの『ベン・ハー』『ローマの休日』など数々の名作を生んだあこがれの映画撮影所です。チネチッタに棲む“映画の歴史”に見守られて、こんな映画ができました。とはいえ監督はナンニ・モレッティ。一癖も二癖もある皮肉たっぷりの主人公は健在です(笑)。でもその先には……映画の神に祝福されたイタリア映画の底から、イタリア映画だけに許された陽気な祝祭に舞いましょう。

30 年前の『親愛なる日記』を見返すと、一層面白くなるはず。そう思って久々にスクリーンで再見します。1990 年代のローマの美しい街並みを、ベスバに乗ってまいりましょう♪



『チネチッタで会いましょう』Il sol dell'avvenire

監督：ナンニ・モレッティ

出演：ナンニ・モレッティ、マルゲリータ・ブイ、
マチュー・アマルリックほか

配給：チャイルド・フィルム
(2023 年/イタリア・フランス/96 分)



『親愛なる日記』レストア版 Caro diario

監督：ナンニ・モレッティ

出演：ナンニ・モレッティ、ジェニファー・ビールス、
アレクサンダー・ロックウェルほか

配給：チャイルド・フィルム
(1993 年/イタリア・フランス/101 分)



🎬 “もうひとつの世界”それは“言葉にからめとられる前の世界”——あと 1 ヶ月

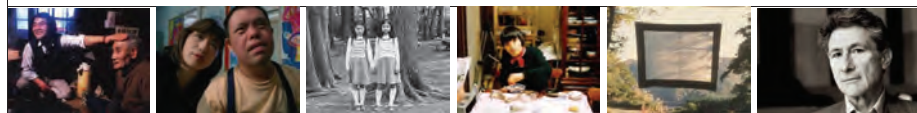
年末のプレ上映『SELF AND OTHERS』で佐藤真監督特集がスタートしました。佐藤真監督のドキュメンタリーには、登場する土地、人物について説明したり、あらすじをまとめたりを許してくれない何かがあります。答えはない、問いもしない。ただ考える。映画の自由と、映画を見ることの可能性を大きく広げてくれる“もうひとつの世界”。スクリーンに映し出されないものの力が見る者に迫る、見たことのない 6 本の“暮らしの思想”を、2 月もたっぷりどうぞ堪能ください。

『暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE』RETROSPECTIVE 配給：Alfabet



- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| ①『阿賀に生きる』(1992) | ④『花子』(2001) |
| ②『まひるのほし』(1998) | ⑤『阿賀の記憶』(2004) |
| ③『SELF AND OTHERS』(2000) | ⑥『エドワード・サイード OUT OF PLACE』(2005) |

【おしらせ】⑥『SELF AND OTHERS』の最終上映は 2/16(日)13:00-14:00 です



🎬 春の気配、楽しい予感。『白夜』が和歌山にやってくる！

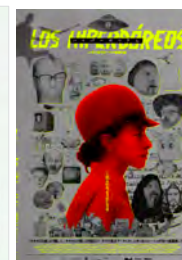
フィンランドの小さな町に映画館がやってくる！
1 月は、住民たちの愛に包まれたカウリスマキ監督の幸せな姿で明けました。偶然ですが、2 月も映画と映画館にまつわる作品が続きます。いや、これは必然なのかも!? 2 人の監督の映画への思いには、和歌山の映画ファンとどこか通じるところがあるんですね…。

昨年末くらいから、久しぶりに本を買うようになりました。あと、昔の CD をひっぱり出してきたり。物欲の話じゃないんです。意欲でしょうか。黒沢清監督が言うように、現実を輝かせてくれるものが、和歌山には今たくさんありますね。むかし母に言われた言葉がいま身に沁みます。「自分が身につけたことや吸収したことは、ひとに取られることないんやで」映画ばっかり見てる言い訳にしてきたかな(汗)。

さあ、春です。“映画の記憶”が整理できたら、また新しいものをどんどん見たいですね。「昨日ちょっと間に合わなかったんでイオン行きました」お客さまの言葉で気付く幸運——そう、和歌山市には、車ならすぐの距離に映画館が 3 館ありますもんね。アルモドバルの新作どうなってるのか気になりつつ、203 は GW までの上映作品を決めました。

3 月は、予告を上映するたび大反響の『ヒプノシス』と、今月ついに半世紀ぶりに本国フランスで再上映される『白夜』を 4K で。4 月は、203 で上映したことのない 2 つの国=ブータンとジョージアより、「山の国特集？」をお届けします。『オオカミの家』が記憶に新しい南米チリの新作は、どのタイミングが良いですか!?

(北ぶらの録音係より)



🎬 3/2(日)は本町文化堂 [音楽と無声映画 活弁ノ巻]。阪東妻三郎『雄呂血 (おろち)』@和歌山城ホール！